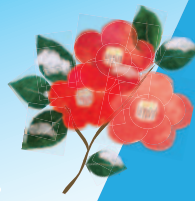


みらい 川崎市議会議員団だより

しまだ和明 市議会 ニュース



令和6年冬号

発行

みらい 川崎市議会議員団
〒210-8577
川崎市川崎区宮本町1番地
電話：044-200-3355
FAX：044-245-4135

令和5年市議会第5回定例会は、11月27日から12月20日まで開催され、議案36件（条例14件、事件20件、補正予算2件）及び追加議案2件（補正予算1件、事件1件）が提案されました。今回の定例会は、市職員の給与に関する一部改正の議案をはじめ、「川崎市子ども文化センター及び川崎市ふれあい館」等の指定管理者の指定、物価高騰対応の一般会計補正予算等が審議されました。12月6日にみらい川崎市議会議員団の織田勝久議員（宮前区選出）が会派を代表して質問しました。様々な議論のもと意見要望もふまえ、全ての議案が可決しました。

代表質問と嶋田和明議員の一般質問の質疑概要などを報告します。



嶋田和明

プロフィール

SHIMADA KAZUAKI

- 1968年9月川崎市で生まれる。現在55歳
- 1991年3月法政大学経営学部経営学科卒業
- 1991年4月川崎市中学校社会科教諭
- 2000年4月川崎市体操協会事務局長・理事長

- 2018年4月川崎教育文化研究所所長
- 2021年4月(公財)川崎市スポーツ協会理事
- 2022年4月多摩教育文化研究所所長
- 2023年4月市議会議員選挙(多摩区)初当選



みらい川崎市議会議員団の主な代表質問

Q

市制100周年記念事業・ 全国都市緑化かわさきフェアについて

「かわさき市民まつり」や初開催された「みんなの川崎祭」は多くの賑わいとなり、100周年記念事業に向けて大きなはずみになった。一方、各イベントにて本市が100周年を迎えることや緑化フェアの認知度についての調査を行ったが認知度が低いことが懸念される。認知度調査の結果と傾向について伺う。

A

認知度については、各区で実施するイベントにおいて、普及啓発を兼ねてアンケートを実施している。令和5年7月以降、30回のイベントにおいて4238票の回答のうち、フェアを知っていた方の割合は約3割であり、課題と認識している。ホームページは、当初、フェア期間中のイベント情報などを知らせる予定だったが、令和5年度中に開催前から関連するイベント情報や公園・広場といった「まちなかみどりスポット」等における各区の取組等を幅広く掲載できるよう、見直しを進めている。

Q

不登校対策について

「令和4年度川崎市児童・生徒の問題行動・不登校等調査」の調査結果によると、不登校児童生徒数は、小中学校合わせ2816人となり、前年度から363人増加し過去最多となっている。7月から9月にかけて、学識経験者や関係機関の代表者による「川崎市不登校対策に係る懇談会」が開催され、「不登校対策の充実に向けた取組指針（案）」の策定が進んでおり、別室指導の充実、メタバース空間の活用、家族への切れ目ない支援等、新たな取組が盛り込まれており不登校支援の充実が期待される所である。取組を伺う。

A

指針（案）については、不登校の現状や課題等をふまえて、今後の不登校対策についての考え方や、取組の方向性について取りまとめ、具現化に向けて関係局等と連携しながら進める。別室指導は、登校への不安の軽減等に高い効果が見られる一方、指導を行う人員体制や使用する教室環境等に課題がある中、各学校においては様々な工夫をしながらとりくんでいる。事務局職員が全ての市立小中学校を訪問して状況を確認し、好事例の横展開と課題の改善に向け検討をする。保護者支援については、総合教育センターのホームページに相談窓口を掲載等しているが、必要な情報が一括して得られる仕組みとするなど、利用しやすい情報発信に努める。



市政についてのご意見・ご要望をお気軽にご連絡ください

しまだ和明事務所

〒214-0037 川崎市多摩区西生田2-1-3

TEL/FAX 044-819-5238

shimada9990@yahoo.co.jp



公式アカウント
ご登録ください



HP

f

X

しまだ和明の 一般質問の概要

五反田川の白濁と環境対策について

Q 小田急線生田駅付近のおよそ300mにわたって河川が白く濁っている現象が続いている。この河川の地下にはJR東日本の貨物線があり、トンネル内に湧き出た地下水が溜まると自動的にポンプで汲み上げられ、マンホールより河川に流される仕組みとなっている。自治会では、町会連合会を通して毎年五反田川の調査と環境対策を市に要望しているが、これまでどのような調査が行われたのか。

A 放流口で採水した河川水については、環境基本法で規定されている代表的な重金属類について、環境基準超過はなかった。なお、下流においては、環境基準がない溶解性鉄の項目が他の市内河川と比べ高い傾向となっていることが判明している。この溶解性鉄は鉄分の多い地層からの湧水に由来するため、人体への影響はないと考えている。



Q この白濁が環境基準の数値を超えず人体に影響は無いとはいえ景観を損なっており、地域住民が日常生活を過ごす上で不安がある。安心して住みやすい環境という観点で適切な対応が必要である。地域住民の意向をふまえ関係機関やJR東日本と協議し連携した取組が必要と考えるが。

A 本市では、令和3年度に河川維持管理計画を策定し、河川機能の適切な維持・向上による、水害の最小化や利水機能の維持のほか、河川環境の保全についても目標として掲げており、良好な水質の保全は必要であると認識している。河川管理者として、JR東日本に対して原因究明に向けた調査の協力を求めるなど、適切に対応していく。



学校プールの管理体制について

Q 今年5月、小学校でプールの止水作業の操作ミスにより5日間プールに注水し約190万円の損害が生じた。今回の事案から学校のプールの管理をめぐる様々な課題が明らかとなった。市内公立学校175校のプールの設置状況では、プールがあり使用している学校は162校。また、民間やスポーツ施設のプールを使用している学校は3校。濾過器が無い「ため池式」の古い形式のプールは24校になる。小学校の教員からは、水泳授業が終わると水を抜き、翌日の朝、担当教員が清掃し水の注水を行うなど、年数時間程度の水泳の学習に多大な労力と費用がかかっている旨が報告されている。市教委としてこれら学校のプール管理をめぐる様々な実態や課題について調査を行い改善に向けて検証していく必要があると考えるが。



A 学校プールの管理・運営に関する現状と課題を改めて確認するため、給水方式や、プール関連の作業に関する実態調査を令和5年11月28日付けで各学校に依頼した。今後、その結果を整理・検証し、プールの管理の在り方について検討する。

Q これらの実態調査をもとに、教職員の働き方改革の観点で、適正な人員体制や環境整備を進める必要があると考える。プールの注水作業や水質管理については、用務員の職務内容への追記や、事務支援員の増員等ソフト面の対策に加え、水位調節など給水作業の機械化などハード面の対策で対応も可能。また、プールの改修の費用対効果を考えて場合、近隣の民間プールを積極的に利用することも考えられるが。

A 教職員の働き方・仕事の進め方改革として、教員が授業や児童生徒指導等の本来的な業務に、一層専念できる環境を整えていくため、プール関連業務についても、今後、各学校の実態を整理し、教員以外の職員との協力体制や役割分担、学校プールの老朽化等に伴う更新のニーズが発生した場合の民間プールの活用など、教員の負担軽減に資する取組を検討していく。

しまだ和明の 議員活動報告

令和6年度予算要望書を市長へ提出

12月8日、みらい川崎市議会議員団は、「令和6年度予算要望書」を市長へ提出しました。この要望書は、会派に所属する議員が、基本項目、要望項目、区別の要請の各々についてとりまとめたものです。その中で多摩区の重点施策を3つの柱にまとめました。柱の主な内容を報告します。



1. どこよりも子育てしやすい多摩区へ

- 生田緑地及び緑地内の公共施設について子育て環境の充実に留意した整備及び活用すること。
- 児童生徒の通学路の安全対策を一層進め、指摘された危険箇所について早期に対策を講じること。
- 区内の公園については、公園管理協議会や公園愛護会等と協議し、地域コミュニティの場として取り組むこと。



2. 地域の交通課題の解決

- 生田地区や南生田地区をはじめ交通不便地域へのコミュニティ交通等を早期に導入し、交通アクセスや利便性の向上を図ること。
- 生田緑地、藤子・F・不二雄ミュージアム、向ヶ丘遊園跡地へのアクセスを向上させること。
- JR南武線の下河原踏切の拡幅、Ankerフロンタウン生田・生田ふれあい広場周辺の交通対策。

3. 災害対策の一層の推進

- 多摩川の浚渫を進めると共に、河川敷における水害対策を進めること。また被害を受けた場合、早期に復旧すること。
- 地域防災計画及び風水害・土砂災害ハザードマップの周知に取り組み、防災ネットワーク連絡会議の機能強化を図ること。

